

高等学校新学習指導要領解説の公表を受けて——国語

平成30年7月に公開された「高等学校学習指導要領解説 国語編」(以下、「解説」と表記)

は、現行課程のものより3倍以上の分量になっています。本稿では、その「解説」の中から特記事項を抽出する形で学習指導要領の補足的説明を行い、より学習指導要領が理解しやすくなることを企図してまとめました。

1. 総説

国語では必修科目・選択科目ともに大規模な科目構成の改編が行われます(図1)。現行制度を基にカリキュラムを考える際、特に、以下の点で悩むことが多そうです。

○必修科目が二つに分かれるが、「現代文編」「古典編」のような分け方ではないので、指導教員や授業時数の割り振りに迷う。

現行	改訂
国語総合 (4)	現代の国語 (2)
	言語文化 (2)
国語表現 (3)	論理国語 (4)
現代文A (2)	文学国語 (4)
現代文B (4)	国語表現 (4)
古典A (2)	古典探究 (4)
古典B (4)	

・太枠は必修科目
・()内は標準単位数

図1 科目構成の変更

現行 (国語総合)	改訂
1 目標	1 目標
2 内容	2 内容
<ul style="list-style-type: none"> — 話すこと・聞くこと — 書くこと — 読むこと — [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] 	<ul style="list-style-type: none"> — [知識及び技能] — [思考力、判断力、表現力等] — 話すこと・聞くこと — 書くこと — 読むこと
3 内容の取扱い	3 内容の取扱い

図2 各科目の本文構成の変更 「資質・能力の三つの柱」は、育成すべき資質・能力として「①知識及び技能」「②思考力、判断力、表現力」「③学びに向かう力、人間性等」を挙げる考え方。各科目で学習される「内容」は、このうち①・②に沿った形で示される。「内容」以下、各科目に対応する学習領域は図3参照。

○選択科目の標準単位数がすべて四単位となり、これまで「現代文A」「古典A」「国語表現」を履修していた学校ではカリキュラム編成に迷う。

○これまで「現代文B」を履修していた学校でも、一・二・三年生での国語の単位数によっては「論理国語」「文学国語」のどちらかを履修できない。例えば、「文学国語」が履修できなければ、小説を扱う授業時数が極端に減る。

各科目の学習指導要領本文においては、文部科学省の提唱する「資質・能力の三つの柱」に沿う形で、本文構成が変更されています(図2)。そして「解説」では、どのような資質・能力を育成するか、ということ強く意識するように求めています(「解説」3ページ)。国語科で特徴的な点としては、教材への依存度の高さが指摘されており(「解説」6ページ)、これまで「筆者の考え」の読み取りを重視しがちだった点を改めて、「考えの形成」と探究的な学びを重視するように求めています(「解説」12ページ)。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三領域の指導については、(図4)のようにこれまで以上に細かく配当時間の目安が示されています。「解説」では、各領域を区別して計画的に指導することが求められています。具体例として次の枠内に引用したのは「現代の国語」の「話すこと・聞くこと」の「内容の取

扱い」の一部ですが、他の科目、他の領域においても同様の解説がなされています。一つの教材で「話すこと・聞くこと」の指導も「読むこと」の指導も両方行う、ということは想定されていません。

第2章 国語科の各科目／第1節 現代の国語／4 内容の取扱い

(1)ア

「A話すこと・聞くこと」に関する指導には、20～30単位時間程度を配当するものとしている。この配当時間は「A話すこと・聞くこと」に関する内容を指導するために要する時間を基礎として定めたものであり、「B書くこと」及び「C読むこと」に関する指導とは区別して計画することが必要である。……「A話すこと・聞くこと」に関する指導を、科目全体の計画のどの位置に、どのように設定するかについては、単元を設定してある時期にまとめて行うことなどが考えられるが、生徒の実態に応じて各学校で適切に定めることが大切である。この場合、「知識及び技能」「B書くこと」及び「C読むこと」の指導との関連を図ることも重要である。

〔解説〕104ページ

科目	話聞	書	読
現代の国語	○	○	○
言語文化		○	○
論理国語		○	○
文学国語		○	○
国語表現	○	○	
古典探究			○

話聞…話すこと・聞くこと
書…書くこと
読…読むこと

図3 学習領域の対応表

	科目	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	総時数
	改訂	現代の国語	20～30	30～40	10～20
言語文化			5～10	40～45 (古典) 20 (近代以降)	70
論理国語			50～60	80～90	140
文学国語			30～40	100～110	140
国語表現		40～50	90～100		140
現行	科目	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	総時数
	国語総合	15～25	30～40	—	140

図4 配当時数の目安

2. 現代の国語

実社会における基礎的な言語運用能力を養う、二単位の必修科目です。(図4)に示したとおり、大半の時間を「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導に充てることになり、現行版の国語総合よりは国語表現に近い印象の科目です。

「読むこと」の教材としては、「現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章」を扱うものとされています。ここでいう「現代の社会生活に必要とされる」という言葉には、高校卒業後にビジネス社会に出て役立つような、という意味合いが込められています。言語活動例として「異なる形式で書かれた複数の文章や、図表等を伴う文章」を読むことも挙げられているので、教材としては大学入学共通テストに出題されるような、さまざまな形態の文章も扱うこととなります。

3. 言語文化

上代から現代までの日本語にまつわる文化について理解を深める、二単位の必修科目です。「読むこと」の教材としては、「古典」及び「近代以降の文章」を扱うものとされています。

古典教材に関しては、「日本漢文」「近代以降の文語文」「近代以降の漢詩文」なども含めることになりました。

一方、近代以降の文章の指導については、我が国の言語文化への理解を深めるよう指導を工夫することが求められており、例えば、伝統文化や古典との関連がない現代小説は「読むこと」の教材として収録できないこととなります。

4. 論理国語

論理的に読んだり、批判的に書いたりする力を養う、四単位の選択科目です。

「書くこと」の学習領域は、いわゆるアカデミックライティングにつながる活動が想定されており、言語活動例として短い論文をまとめて批評し合う活動が例示されています。

「読むこと」の教材としては「近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要とされる実用的な文章」を扱うものとされ、「現代の国語」を受けた内容になっています。また、必要に応じて「近代以降の文章の変遷」を扱ったり、「翻訳の文章や古典における論理的な文章」を用いることができるとされています。

5. 文学国語

感性や情緒を育成するため、深く共感したり、豊かに想像したりして、書いたり読んだりする力を養う、四単位の選択科目です。「書くこと」の指導事項として「文学的な文章を書く」こと

が示されました。

「読むこと」の教材としては「近代以降の文学的な文章」を扱うものとされています。また、必要に応じて「翻訳の文章、古典における文学的な文章、近代以降の文語文、演劇や映画の作品及び文学などについての評論文など」を用いることができるとされています。

6. 国語表現

現行の「国語表現」の後継となる、四単位の選択科目ですが、「実社会に必要な知識」という観点から、指導事項や言語活動例に手が加えられています。例えば、言語活動例として挙げられている「異なる世代の人や初対面の人へのインタビュー」「実務的な手紙や電子メールを書く」といった活動は、「実社会に必要な知識」を意識したものであるといえるでしょう。

7. 古典探究

伝統と文化の基盤としての古典の重要性を理解し、古典の意義や価値について探求する、四単位の選択科目です。おおむね現行の「古典B」を受けた内容ですが、「読むこと」の言語活動例として往来物を読むことを挙げている点が目を引きます。(教研出版編集部)

高等学校の各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数

〔 改 訂 〕

〔 現 行 〕

教科	科 目	標準 単位数	必修 科目	
国語	現代の国語	2	○	
	言語文化	2	○	
	論理国語	4		
	文学国語	4		
	国語表現 古典探究	4 4		
地理 歴史	地理総合	2	○	
	地理探究	3		
	歴史総合	2	○	
	日本史探究	3		
	世界史探究	3		
公民	公共 倫理 政治・経済	2 2 2	○	
	数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで減可
		数学Ⅱ	4	
数学Ⅲ		3		
数学A		2		
数学B 数学C		2 2		
理科	科学と人間生活	2	┌ 「科学と人間生活」を └ 含む2科目 又は 基礎を付した 科目を3科目	
	物理基礎	2		
	物理	4		
	化学基礎	2		
	化学	4		
	生物基礎	2		
	生物	4		
	地学基礎	2		
	地学	4		
保健 体育	体育	7～8	○	
	保健	2	○	
芸術	音楽Ⅰ	2	┌ ○ └	
	音楽Ⅱ	2		
	音楽Ⅲ	2		
	美術Ⅰ	2		
	美術Ⅱ	2		
	美術Ⅲ	2		
	工芸Ⅰ	2		
	工芸Ⅱ	2		
	工芸Ⅲ	2		
	書道Ⅰ	2		
	書道Ⅱ	2		
	書道Ⅲ	2		
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	○2単位まで減可	
	英語コミュニケーションⅡ	4		
	英語コミュニケーションⅢ	4		
	論理・表現Ⅰ	2		
	論理・表現Ⅱ	2		
	論理・表現Ⅲ	2		
家庭	家庭基礎	2	┌ ○ └	
	家庭総合	4		
情報	情報Ⅰ	2	○	
	情報Ⅱ	2		
理数	理数探究基礎	1		
	理数探究	2～5		
総合的な探究の時間		3～6	○2単位まで減可	

教科	科 目	標準 単位数	必修 科目	
国語	国語総合	4	○2単位まで減可	
	国語表現	3		
	現代文A	2		
	現代文B	4		
	古典A 古典B	2 4		
地理 歴史	世界史A	2	┌ ○ └	
	世界史B	4		
	日本史A	2		
	日本史B	4		
	地理A 地理B	2 4		
公民	現代社会 倫理 政治・経済	2 2 2	「現代社会」又は 「倫理」・「政治・ 経済」	
	数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで減可
		数学Ⅱ	4	
数学Ⅲ		5		
数学A		2		
数学B 数学活用		2 2		
理科	科学と人間生活	2	┌ 「科学と人間生活」を └ 含む2科目 又は 基礎を付した 科目を3科目	
	物理基礎	2		
	物理	4		
	化学基礎	2		
	化学	4		
	生物基礎	2		
	生物	4		
	地学基礎	2		
	地学	4		
理科課題研究	1			
保健 体育	体育	7～8	○	
	保健	2	○	
芸術	音楽Ⅰ	2	┌ ○ └	
	音楽Ⅱ	2		
	音楽Ⅲ	2		
	美術Ⅰ	2		
	美術Ⅱ	2		
	美術Ⅲ	2		
	工芸Ⅰ	2		
	工芸Ⅱ	2		
	工芸Ⅲ	2		
	書道Ⅰ	2		
	書道Ⅱ	2		
	書道Ⅲ	2		
外国語	コミュニケーション英語基礎	2	○2単位まで減可	
	コミュニケーション英語Ⅰ	3		
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		
	コミュニケーション英語Ⅲ	4		
	英語表現Ⅰ 英語表現Ⅱ 英語会話	2 4 2		
家庭	家庭基礎	2	┌ ○ └	
	家庭総合	4		
	生活デザイン	4		
情報	社会と情報 情報の科学	2 2	┌ ○ └	
	総合的な学習の時間		3～6	○2単位まで減可